

平成26年度ヨコワ情報

平成 27 年 1 月 20 日
鹿児島県水産技術開発センター



1 今年度漁期のヨコワの来遊予測

当センターでは、平成 23 年度から鹿児島大学水産学部と共同でヨコワの漁獲量予測モデルの開発を行っており、今年度漁期（平成 26 年 12 月から平成 27 年 4 月）の南薩海域へのヨコワの来遊を、次のように予測しました。

今年度漁期のヨコワ漁獲量は、10 トンを下回り、近年並みの低調な漁模様となるでしょう。

2 予報の根拠

① 漁獲量予測モデルによる予測値

8~11 トン

統計的機械学習手法のひとつである「サポートベクター回帰」による解析

② 今年度クロマグロ発生に関する情報

○太平洋発生群に関する情報

平成 26 年春に沖縄県において漁獲されたクロマグロ親魚の漁獲量は前年・平年並となっています。また、平成 26 年夏に本県及び高知県において漁獲されたヨコワ養殖用種苗の漁獲量は前年・平年を下回っています。これらのことから、平成 26 年の太平洋発生群のヨコワは前年・平年より少ないと予想されます。

○日本海発生群に関する情報

平成 26 年夏に漁獲された日本海クロマグロ親魚の漁獲量は前年並で平年を下回っています。このことから、今年度の日本海発生群のヨコワは前年・平年より少ないと予想されます。

○平成 26 年加入量の予測

独立行政法人水産総合研究センター 国際水産資源研究所が発表した「太平洋クロマグロ平成 26 年生まれ加入量モニタリング速報（平成 26 年 12 月）」では、

① 南西諸島海域生まれの加入量水準は、漁獲状況の悪かった平成 24 年を下回る。

② 日本海生まれの加入量水準は、平成 25 年を下回る。

③ 全体として、平成 26 年の加入量水準は平成 24 年を下回る低水準。

と推察しています。

○環境要因に関する情報

ヨコワの漁獲量は南薩・西薩海域の水温が低い時、また、黒潮北縁が離岸している時に増加する傾向が見られます。平成 26 年 11 月の南薩・西薩海域の水温及び黒潮北縁は平年並みとなっているので、ヨコワの来遊条件としては平年並みと考えられます。

以上のことから、漁獲量予測モデルによる予測値は 8~11 トンと推定されましたが、平成 26 年の加入量や他県の漁獲状況等を勘案して 10 トン未満の漁獲と予想しました。

今後、漁海況週報やホームページ上で発表する水温情報に注目してください。

ヨコワ漁場の水温の目安は、18~20℃の水温帯です。

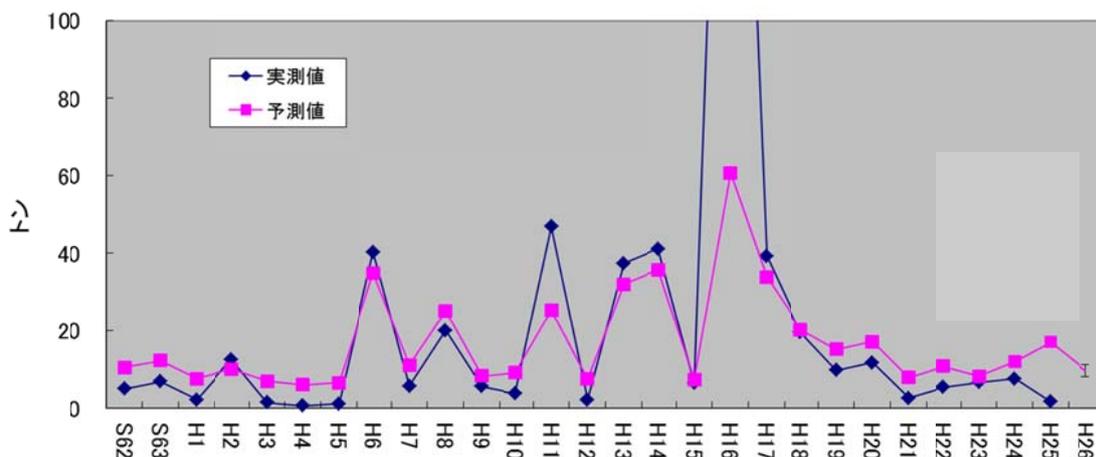
【参考情報】

(1) 統計モデルによるヨコワ漁獲量予測

当センターでは平成 23 年度から鹿児島大学水産学部と共同でヨコワの漁獲量予測モデルの開発を行っています。本予測は S62 年からの長崎県ヨコワ漁獲量，高知県ヨコワ養殖用種苗漁獲量，沖縄県クロマグロ漁獲量，日本海まき網船のクロマグロ漁獲量，本県ヨコワ養殖用種苗漁獲量，本県前年度のヨコワ漁獲量，本県カツオ漁獲量及び南薩・西薩海域の水温，黒潮の離接岸状況を説明変数として，統計モデルを用いて予測しています。

H26 年度漁期の漁獲量予測値 8 ～ 11 トン

(参考：H25 年度漁期予測値 14 ～ 20 トン 実測値 1.5 トン)



※ H16 年 実測値 271.5 トン，予測値 60.7 トン

(2) 現在までの近隣海域のヨコワ情報

① 山口県海域

ほぼ前年並の漁模様。

② 長崎県海域

1 月中旬現在，前年・平年を下回るような低調な漁模様。

③ 高知県海域

夏季の養殖用種苗の採捕尾数は前年・平年を下回った。

③ 鹿児島県沿岸域

全般的に低調。

(3) クロマグロ大型群に関する情報

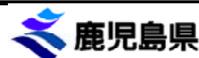
① 太平洋

沖縄県に平成 26 年春に水揚げされたクロマグロの漁獲量は，前年・平年並であった。

② 日本海

日本海の境港に平成 26 年夏に大中型まき網により水揚げされたクロマグロの漁獲量は，前年・並で平年を下回った。

鹿児島県水産技術開発センター



〒891-0315 指宿市岩本字高田上160番10

TEL : 0993-27-9212, FAX : 0993-27-9218

E-mail : suigi@pref.kagoshima.lg.jp

U R L : <http://kagoshima.suigi.jp>

<http://kagoshima.suigi.jp/i/>(携帯電話)

漁海況週報FAX情報サービス

衛星画像(水温分布図) FAX : 0993-27-9234

漁海況週報 FAX : 0993-27-9235